

2017年度大会結果

第26回 春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会



2017年3月26日
北九州メディアドーム (福岡県北九州市)
優勝: J.I. ヴァイクトリー (福岡県)
準優勝: 対雁Vブルーウイング (北海道)
第3位: 月越ストーム (埼玉県)
第3位: 北麓ファイターズ (山梨県)

第4回 全日本女子総合選手権 シニア女子の部



2017年12月9～10日
草薙総合運動場「このはなアリーナ」(静岡県静岡市)
優勝: のーてんき (東海ブロック予選)
準優勝: OVER DRIVE (関東ブロック予選)
第3位: SP-girls (関東ブロック予選)
第3位: POWERPUFFL-SENIOR (東海ブロック予選)

2018年度大会予定

- 第28回全日本ドッジボール選手権全国大会
日時: 2018年8月12日(日)
場所: ALSOKぐんまアリーナ (群馬県前橋市)
- 2018 J.D.B.A. 全日本選手権
日時: 2018年10月14日(日)
場所: 草薙総合運動場「このはなアリーナ」(静岡県静岡市)
- 第4回アジアカップ
日時: 2018年11月9日(金)～11日(日) 予定
場所: 韓国
- 第5回全日本女子総合選手権
日時: 2018年12月16日(日)
場所: 北九州市立体育館 (福岡県北九州市)
- 第28回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会
日時: 2019年3月24日(日)
場所: サオリーナ (三重県津市)

役員変更のお知らせ

この度、前理事長の京極 努より辞任の申し出があり、1月8日の理事会において承認され、新たに理事長・副理事長を右記のとおり選任いたしました。引き続き、理事一同、競技・レクリエーションの両面におけるドッジボールの普及発展にまい進してゆく決意です。今後とも変わらずご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

第27回 全日本ドッジボール選手権全国大会



2017年8月13日
さいたま市記念総合体育館 (埼玉県さいたま市)
優勝: 6ネズ98 (岐阜県)
準優勝: ガッツクラブ (兵庫県)
第3位: SG Special (栃木県)
第3位: 南輝ドッジボールクラブ (岡山県)

D-1Gの部



2017年12月9～10日
草薙総合運動場「このはなアリーナ」(静岡県静岡市)
優勝: レッドスターズ福岡Ver.G (福岡県)
準優勝: ヨコスカDCK (愛知県)
第3位: MITO GIRLS D・B (茨城県)
第3位: 東名パワーパフガールズ (愛知県)

理事長	城門 政文
副理事長	長谷川 満也
理事	山田 孝
理事	中野 誠司
理事	岩見 喜市
理事	後藤 聖子

2018年度日本代表候補選手審査 2月12日より募集開始!

一次審査申込みは3月31日までとなっております。フォーム入力と書類提出が必要ですので、代表を目指す選手は忘れずにお手続きください。
※詳細は日本協会HPの日本代表ページをご覧ください。

ドッジボール日本代表後援会・家族会 (DJBF) ご紹介



ドッジボール日本代表後援会・家族会は、2016年度第3回アジアカップを前に発足しました。2018年度会員を募集中です。詳しくは下記までお気軽にお問い合わせください。

2017 J.D.B.A. 全日本選手権



2017年10月1日
スカイホール豊田 (愛知県豊田市)
優勝: 阿呆鳥 (東海ブロック予選)
準優勝: Feujon (東海ブロック予選)
第3位: 松阪 SC Returns (東海ブロック予選)
第3位: 原田WINGS-MAX (九州ブロック予選)

開催告知

第27回 春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会
日時: 2018年3月25日(日)
場所: サオリーナ (三重県津市)

<連絡先>「ドッジボール日本代表後援会・家族会 (DJBF)」事務局 (担当: 大村陽子)
TEL. 090-6838-8062
※会員期間・規則などの詳細については、DJBF事務局より「入会申込書」を送付しますのでご確認ください。
※本組織は一般財団法人日本ドッジボール協会とは別組織であり、「代表選手の活動支援」を目的に活動しています。

2018年度更新、間もなく開始!

2017年度に更新または新規でご登録を頂いた公認審判員(A・B・C級)・公認指導者(区分II)・一般競技者は、2018年度の資格更新手続きをお願いします。2018年度更新手続き期間は2018年4月1日～5月31日です。期間内に更新登録が完了できない場合は、資格失効となりますのでご注意ください。一般・中高生競技者の新規登録も4月1日より開始します。

広報紙掲載チーム (選手・都道府県協会も!) 募集中!

毎年発行される広報紙では、全国各地のドッジボールチームを紹介しています。カテゴリーや戦歴などは一切問いません。パパさんチーム、ママさんチームでも、もちろんOK。掲載を希望するチームは、公式サイトのお問い合わせよりお申し込みください。自薦他薦を問いません。ご応募お待ちしております!

ドッジボールニュース

Vol. 8
2018.03

日本代表活動レポート

ドッジの世界を広げるために



1年ぶりの男子代表 日本代表トレーニングを実施



参加メンバー

昨年、11月4～5日の2日間、山梨県南都留郡山中湖の「グリーンヒルズニューみなみ」にて、2017年男子日本代表トレーニング&トライアルキャンプを開催。2016年アジアカップ日本代表と日本代表候補選手、トライアルキャンプ参加枠選手総勢27名が参加、約1年ぶりの日本代表トレーニングとなりました。

日本代表選手たちの自覚から発する雰囲気と練習に真摯に取り組む姿勢により引き締まった密度のあるトレーニングになり、トライアルキャンプ参加の選手たちも生き生きと練習に挑む姿が印象的でした。今回から合宿に公式審判員の派遣を頂けることになり、試合形式のトレーニングもより集中して行うことができています。さらには日本代表後援会・家族会 (DJBF) のサポートも得られたことで、運営面においてもより充実しました。

2018年度も日本代表事業をより洗練された事業に成長させ、新たな日本代表選手、そしてそこからドッジボール界に貢献するシニア世代を育成できるよう、強化委員会一同引き続き全力で取り組んでまいります。

女子代表

愛知県でトレーニングキャンプを実施



参加メンバー

2月10～11日の2日間、昨年7月に女子日本代表監督に就任した井上隆示氏(愛知県・のーてんき監督)の指導の下、2016年女子日本代表とトライアル中高校生による合同合宿を開催しました。半数以上は初参加の中高校生でしたが、球速やキャッチなどの技術面においても年齢差を感じさせることなく、互いに刺激を受け、声を掛けあいながらハードな練習をこなしました。

初日はアジアカップに向けてのミーティング、2日目には日本代表チームとトライアルチームに分けての試合を実施。中高校生にとっては、日本代表のレベルを身近に感じる機会となりました。中高生の皆さんには、この貴重な経験を生かし、ぜひ日本代表を目指してほしいと思います。

マルチボール男子代表

Asia Pacific Championship 2017に出場



参加メンバー

昨年9月29日～10月1日の3日間、マレーシアで開催された「マルチボール・アジア環太平洋選手権」に、吉田隼也監督(選手兼任)をはじめ10名で構成する日本代表チームが参加しました。本大会には、マレーシアやオーストラリアなど10カ国の代表チームが参加し、日本の最終成績は4位でした。

このマルチボールとは、複数ボールで行うドッジボールのことで、アメリカンドッジボールとも呼ばれ、JDBAのルールとは大きく異なります。吉田監督は「世界的には、こちらのほうが競技国が多く主流になりつつありますが、互いのルールへの理解を深めることが、ドッジボール競技そのものの発展に寄与すると思います」と、チャレンジした目的を語っています。



日本(赤)VSマレーシア(黄)

海外で ドッジボール キルギス編

昨年8月、「キルギス」という途上国で
青年海外協力隊の体育隊員として活動する矢内将洋さんから
日本のドッジボールを紹介したいという相談があり、
日本ドッジボール協会としてボール、ビブスなどを提供しました。
その後、活動は広がり、今年は大会を行う予定とのことです。
同地でドッジボールの普及に取り組む矢内さんにお話を伺いました。



青年海外協力隊
矢内 将洋さん

ドッジボールとの出会いは?

小学校の体育の時間です。授業で行うドッジボールを心から楽しんでいたという記憶があります。また、競技としてのドッジボールを知ったのは、大学卒業後、選手として大会に参加している友達との出会いでした。

なぜ子どもたちに教えようと思ったのですか?

キルギスの体育の授業に教材が少ないことが背景にあります。サッカーやバレーボールをただやらせるという形式の授業が多く、日本と比べると社会性(チームワーク)、健やかな体(適度な運動量)などを十分に養えていないのではないかと考えました。

そこで頭に浮かんだのがドッジボールです。ドッジボールは、チームでの協力が必要、試合中はボールから逃げる(アウトにならない)が求められる男女とも運動量を確保できる、ボールだけあればどこでもできる、体育の教材として適している、そして何より自分自身ドッジボールが大好きであることから指導に踏み切りました。また、キルギスには「オルトトップ(直訳で真ん中ボール)」というドッジボールに似た遊びがありヒントを得ました。

ドッジボールには難しいルールがないので、生徒も先生もすんなり理解してくれました。今は他の隊員を巻き込み、8校を巡回指導し大会準備を進めています。

今後の夢は?

現在、3人の隊員で構成される「体育・スポーツ分科会」で活動しています。この1年間で行った普及活動や4月開催予定の大会を通して、子どもたちにドッジボールの楽しさに触れてもらい、体育教員には教材として効果的であることに気付いてもらうことが目標です。また大会後もキルギス国内でドッジボールが広まり、小学卒業時の好きなスポーツランキングに「ドッジボール」が挙げられることが夢です。それが実現するまでは、キルギスの大学での教材としての効果の説明や学校への指導など、多くのアプローチが必要です。

私の任期が残り半年という現実もありますが、これまでに感じたことや反省点などを次の隊員につなげ、活動を続け、競技として広まることを願っています。

子どもたちの声

- 初めてだったけど、とても楽しかった。(Бурулсун 女子)
- 足も手も使って疲れた。だけど、楽しいスポーツだと思います。(Иманбек 男子)
- もっと遊びたい。(Алтынай 女子)
- 早く試合をしたい。(Адилет 男子)

知っていましたか?

「かつて一緒に住んでいた人々のうち、魚が好きな人々は東に行って日本人になり、肉が好きな人々は西に行ってキルギス人となった。だから日本とキルギスは兄弟である」こちらは、矢内さんが活動しているJICAキルギス共和国事務所の菊地和彦所長から伺いました、キルギスでとてもよく聞くフレーズとのことです。
今までどこにあるかも知らなかった国が急に身近に感じてきませんか?



キルギス共和国の位置(出典:外務省ホームページ)
面積:日本の約半分、人口600万人



WHITE HONEY

こちらキルギスの名産品、白い蜂蜜です。もし見掛けたらぜひお買い求めください。クリーミーで品の良い甘さに驚きますよ。



熱いぞ!
ドッジボール

一般財団法人日本ドッジボール協会 普及委員会事業

SMILEドッジスクール in 三重

日本ドッジボール協会 普及担当理事 山田 孝

今年度の普及事業「SMILEドッジスクール」を、
2018年2月11日(日・祝)、三重県四日市市立日永小学校体育館にて開催しました。

今回の「SMILEドッジスクール」の対象は、

- ・午前の部は小学生初心者(1~3年生)
- ・午後の部は小学生ドッジボール経験者(3~6年生で、D1チーム選手や大会参加経験者)

時期的にインフルエンザ流行のさなかではありましたが、
午前は25名、午後は47名のご参加をいただき、大変盛り上がりました。

午前の部のプログラム

講師の日本代表選手が、まずドッジボールの基本となる「投げる」をイメージしながら、半身の理解、体重移動の理解、コントロールよく投げるための視線の説明をし、班分けされた参加者が班ごとに「投げる」練習を行いました。

次に「捕る」では、捕るための構え、ボールを体の正面で捕ることを教わり、班ごとに「捕る」練習。

まとめとして各班で試合を行い、教わったことを実際に体験しました。子どもたちは満面の笑顔! また、最初は不慣れな動作をはらはらしながら見学していた保護者の方々も子どもたちの出来を見て納得。皆さんに喜んでいただけたのではないかと思います。

午後の部のプログラム

すでにD1チームで活動している選手が対象であり、チーム内での練習は日頃十分行っているため、基本の「投げる」「捕る」のシャドーイングを行い、自分が教えてもらいたいアタック役、捕球役、パス回し役に分かれ、日本代表選手から各役の動作のポイントを教わりました。

いつものチームポジションとは別ポジションに挑戦する子どもが現れたり、上手にできたことで「ディフェンス(守備側)だけでなくオフェンス/アタック(攻撃側)もやってみよう!」という声が聞かれるなど、選手たちの取り組みの真剣さ、意欲の高さを目の当たりにした保護者やチームの監督、コーチの方々も感動されたようです。

最後は、指導されたポイントや動作ができたかのチェックを兼ねて試合を実施。短時間での成長ぶりは驚くほどで、今後の活躍が大いに期待されます。



今回の教室で「これからも、もっとドッジボールをがんばろう!」と思っただけで、日本代表選手を講師に迎えた本事業の意義であり、成果といえるでしょう。

最後に、今回の「SMILEドッジスクール」の開催にあたり、開催県の三重県協会の方々に感謝申し上げます。

ビーチドッジボール発売開始!!

株式会社ミカサと共同でビーチ専用ドッジボールを製作しました。

2018年度は、すでに静岡・東京・大阪・沖縄でビーチドッジ大会が予定されています(予定および都道府県協会開催事業含む)。
ビーチスポーツはこれからが旬です。新たなフィールドにぜひ皆さんご参加ください。



岐阜県ドッジボール協会の 取り組み紹介

卒園ドッジ

岐阜県ドッジボール協会
飛騨地区普及担当
輪方 維さん

岐阜県高山市は、観光地の人気ランキングでも上位に顔を出し年間約450万人が訪れますが、県庁所在地の岐阜市からは高速道路で約2時間かかります。年々チームが減り、現在、ここを活動拠点としているのは1チームしかありません。小学校にチーム募集のチラシを配布してもなかなか集まらないのが現実です。そこで、競技ドッジボールの裾野を広げようと、保育園の年長児を対象とした卒園記念ドッジボール大会を企画、今年で3回目を迎えました。園児たちには、地元のチーム代表(岐阜県協会理事)が月2回ほどボールの投げ方や捕り方を巡回指導。また、先生にもルールを覚えてもらい練習しています。

この事業としての大会が年1回、開催される「卒園記念ドッジボール大会」。毎年、私立の3保育園から80名ほどが参加しています。

また、保育園最後の行事となるため、子どもたちの頑張る姿をカメラやビデオに収めようと、平日にもかかわらず多くの保護者が駆け付けます。当日は、保護者にもドッジボールの面白さを伝えるため、エキシビジョンマッチとして試合を体験してもらいます。親は子どもにかっこいい姿を見せようと必死! 園児たちも応援に力が入ります。試合中、キャッチが上手な先生を発見。なんと、その方は「小学生のころ地元のチームでドッジやってました」とのこと。さらに、保護者の中にもドッジボール経験者が数人見つかり、かなり手応えのある大会となりました。

なお、本大会は保育園の行事であり平日開催のため、協会役員は休暇を取って審判や運営など全てを担当。賞品や交通費などは地元で協賛を集め運営費としています。

ここ2年で効果が現れ始め、小学生になって入部してくる児童が何人かいます。大人からドッジボールの楽しさを教えてもらった子どもたちが笑顔で練習にきてくれそうな予感……、今年も期待できそうです。



一生懸命頑張る園児たち